

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（証券コード: 2579）

【据置】

長期発行体格付	AA-
格付の見通し	ネガティブ
債券格付	AA-
発行登録債予備格付	AA-

■格付事由

- 国内清涼飲料市場でトップシェアのコカ・コーラグループにおけるボトラー。国内におけるコカ・コーラブランドの販売数量の約9割を占め、売上高ではアジア最大級のコカ・コーラボトラーである。当社は米国のザ コカ・コーラ カンパニーおよび日本コカ・コーラの戦略的パートナーであり、格付にはコカ・コーラグループの事業基盤の強さと当社のグループ内での位置づけを織り込んでいる。
- 人出回復により販売数量が回復傾向にあることに加え、販売単価の上昇が進んでいる。また、当社が強みを持つベンディングチャネルのシェアは成長基調で推移しており、これまでの取り組みの成果が出つつある。各商品カテゴリーで有力ブランドを有しており事業基盤は強固であることやコカ・コーラシステムの安定性を背景に、今後も需要回復や価格改定により業績の改善が進むと想定される。財務内容は良好である。以上を踏まえ、格付は据え置いた。ただ、コロナ禍での需要減少及び、原材料・資材・エネルギー価格の高騰や為替相場の変動等による調達コストの増加により 22/12 期まで 2 期連続で事業利益が赤字となっており、販売数量の回復ペースが鈍化すれば黒字化が遅れる可能性もあることから、見通しはネガティブを継続した。今後は調達コスト動向、販売数量、価格改定の浸透度合いと業績回復の進捗などを確認しながら、格付に反映させていく。
- 23/12 期事業利益は会社計画で 50 億円の赤字（22/12 期は 144 億円の赤字）と公表されている。調達コストの増加はあるものの、販売価格への転嫁を進めることで利益を改善させる計画である。当面は 23 年 5 月に計画している缶製品や大型ペットボトル製品などの価格改定の浸透度合いと販売数量に与える影響を確認していく。また、消費者の生活防衛意識の高まりや清涼飲料業界の厳しい販売競争が続くことが想定される中、適正価格を維持できるかを注視していく。ベンディングチャネルでは稼働台数の増加や Coke ON の活用などの施策の効果が出てきている。引き続き質の高いロケーションへの設置、オペレーションの効率化などを進めることで収益力の回復につながるか注目していく。
- 22/12 期末の親会社所有者帰属持分比率は 57.6%であるなど、財務構成は良好な水準にある。製造能力の増強やメガ DC などの大型投資は一巡しており、設備投資は当面抑制されるとみられる。現状の財務構成は維持可能と考えられる。

（担当）井上 肇・三浦 麻理子

■格付対象

発行体：コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA-	ネガティブ

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第1回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	400億円	2019年9月19日	2024年9月19日	0.100%	AA-

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第2回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	600億円	2019年9月19日	2026年9月18日	0.200%	AA-
第3回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	500億円	2019年9月19日	2029年9月19日	0.270%	AA-

対象	発行予定額	発行予定期間	予備格付
発行登録債	1,000億円	2021年6月12日から2年間	AA-

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2023年4月12日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信
主任格付アナリスト：井上 肇
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「食品」（2021年6月1日）、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付の視点」（2003年7月1日）、「持株会社の格付方法」（2015年1月26日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいで行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

予備格付：予備格付とは、格付対象の重要な発行条件が確定していない段階で予備的な評価として付与する格付です。発行条件が確定した場合には当該条件を確認し改めて格付を付与しますが、発行条件の内容等によっては、当該格付の水準は予備格付の水準と異なることがあります。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル